

令和6年ホヤ類調査結果速報 No. 6

令和6年11月21日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

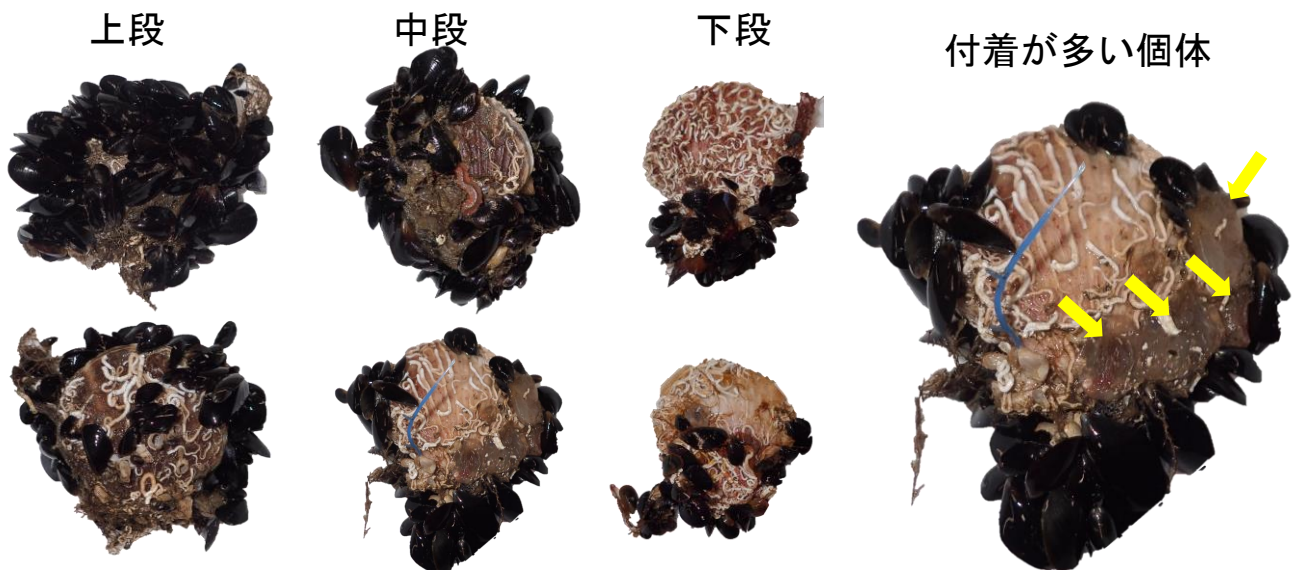
11月20日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

※「平年」とは「過去10ヶ年平均」を表します。

- ・ 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は2.9個体と昨年並みであり、平年の1割程度でした。
- ・ 一方、ヨーロッパザラボヤの付着重量は3.7gと昨年の半分であり、平年の3%程度と低い値でした。
- ・ この原因はヨーロッパザラボヤの平均体長21.7mmとこの時期としてはかなり小さいためと考えられます。
- ・ 今年はヨーロッパザラボヤの付着が少ない年と考えられます。一方、イガイ類の付着が多く、ホタテガイの成長への悪影響が懸念されます。状況に応じて適宜貝洗いを進めてください。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和6年11月20日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和6年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：11月20日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、付着物を調査しました。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり2.9個体（過去10ヶ年の平均26.2個体）、平均付着重量は同3.7g（同116.0g）でした（表1、図3）。平均サイズは21.7mm（過去10ヶ年の平均33.5mm）と平年よりも小さかったです（図2）。過去の調査でこの時期に平均サイズが30mmを下回ったことがなく、例年と比較してかなり小さいサイズです。

ホタテガイ1枚あたりのその他付着物（ヨーロッパザラボヤを除く）の付着重量は111.5gであり、過去10ヶ年の調査で初めて100gを上回りました（図なし）。その他付着物は主にイガイ類であり、ホタテガイと餌が競合することから、ホタテガイの成長を妨げると考えられます。付着状況に応じて貝洗い等の対応を推奨します。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和6年11月20日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	128.5g	158.6g	58.5g	115.2g
ヨーロッパザラボヤ	1.5g	7.7g	2.0g	3.7g
その他	127.0g	151.0g	56.5g	111.5g
ヨーロッパザラボヤ個体数	1.6個体	5.6個体	1.4個体	2.9個体
令和5年11月（R5.11.15）の個体数	1.6個体	5.6個体	0.2個体	2.5個体
令和4年11月（R4.11.28）の個体数	14.6個体	34.6個体	26.2個体	25.1個体
令和3年11月（R3.11.17）の個体数	5.0個体	7.0個体	21.2個体	11.1個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和6年6～11月）

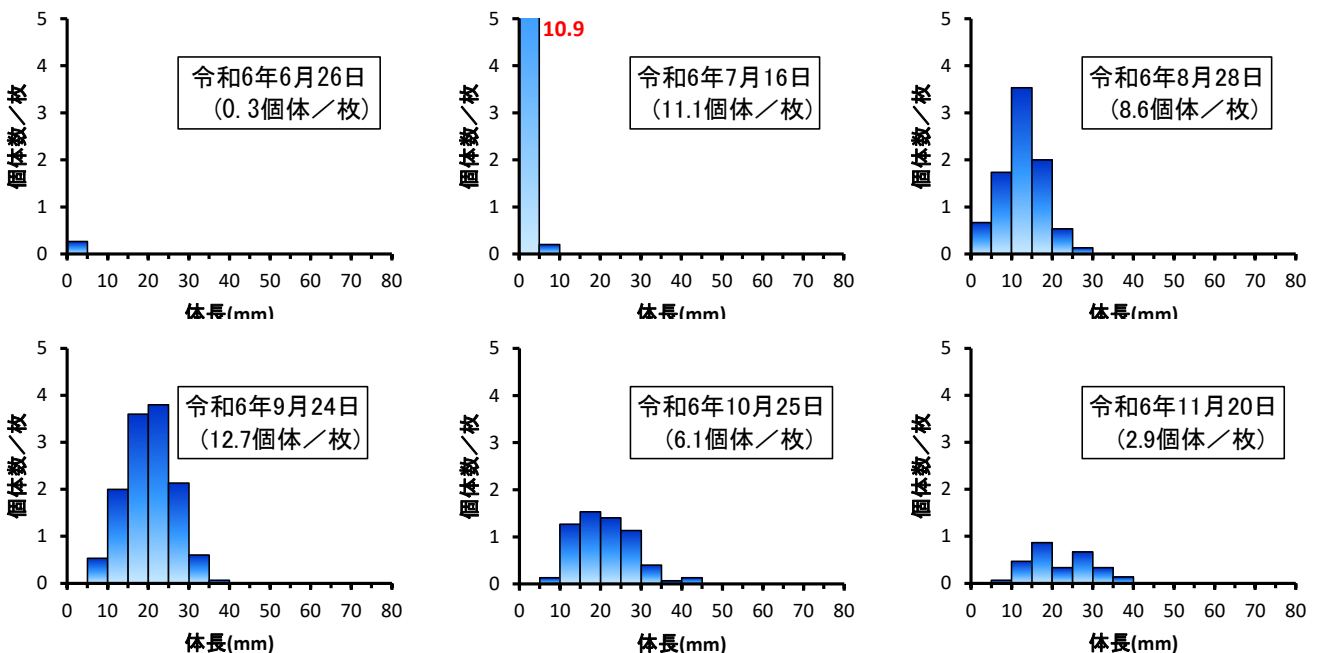
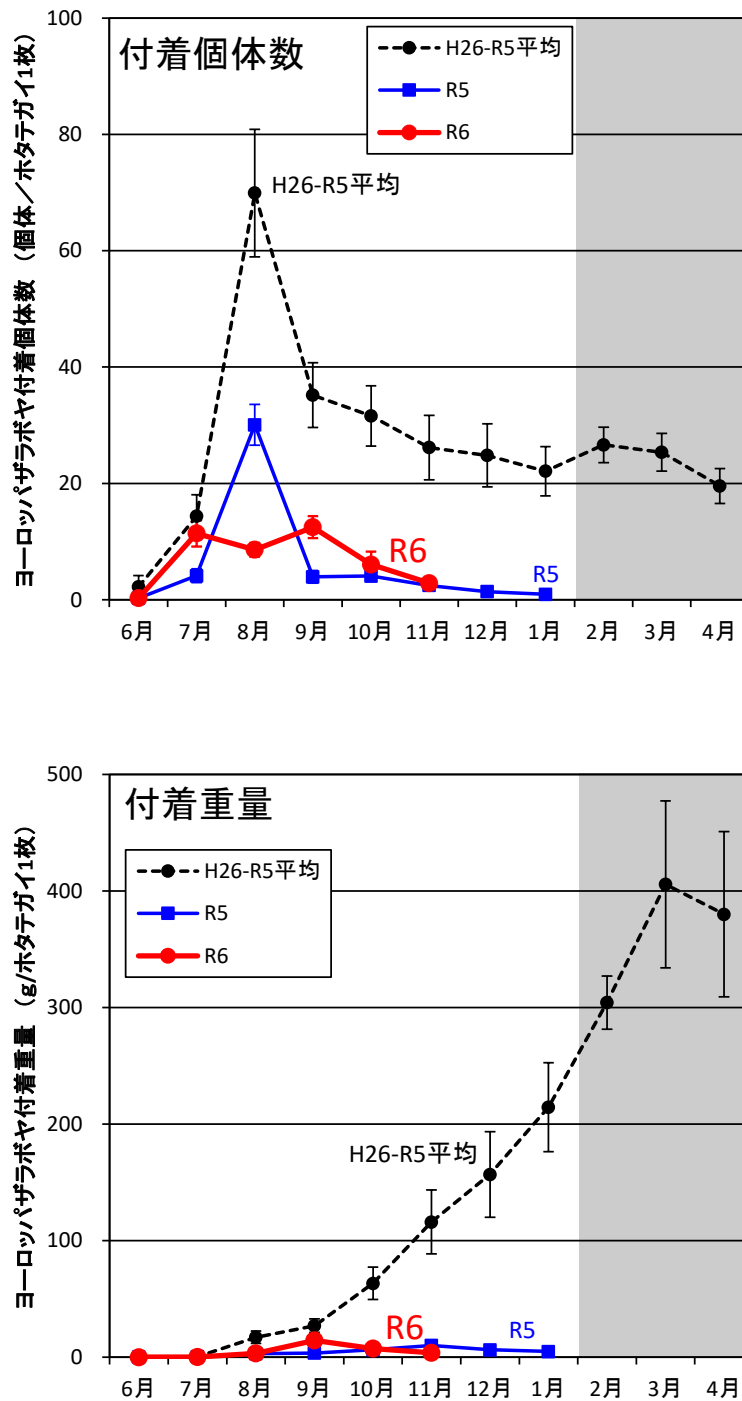


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化
 下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化
 ※影をつけた2-4月はR2年以降調査未実施のため、H22-R1の平均を示す
 各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。
 過去10ヶ年（H26～R5年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着個体数は7～8月に大きく増加し、8～9月に大きく減少した後、10月以降は緩やかに減少します。付着重量は10月以降、急激に増加します。